

様式第 1（第 15 条関係）

会 議 録

会議の名称	第 2 回和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定委員会
開催日時	令和 6 年 9 月 10 日（火）15 時 00 分から 17 時 00 分まで
開催場所	和泉市役所 3 階 庁議室
出席者 (敬称略、五十音順)	【委員長】 桃山学院大学経営学部教授 学芸員課程主任 井上 敏 【副委員長】 和泉商工会議所 副会頭 高橋 澄代 【委員】 公募市民 大西 起子 一般財団法人和泉市文化振興財団 評議員 久保 尚平 公益財団法人大阪観光局 常務理事 平田 知敬 独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館館長 松本 伸之 【事務局】 教育次長兼生涯学習部長 辻 公伸 生涯学習部次長（文化遺産活用・久保惣記念美術館担当） 兼文化遺産活用課長 森下 徹 久保惣記念美術館 館長代理 田中 ゆかり 副館長兼総括参事 橋詰 文之 総括主幹 奥山 高起 株式会社ダン計画研究所 宮尾、上岡 【オブザーバー】 一般財団法人 和泉市文化振興財団 理事長 藤原 明
会議の議題	（１）運営ビジョン作成に向けた基礎調査等の経過 （２）使命(ミッション)案、基本方針(ビジョン)案、取組方針(コンセプト)案 （３）先行的取組ワーキンググループ会議について
会議の要旨	事務局より、第 1 回委員会以降の基礎調査等の経過説明、使命(ミッション)案、基本方針(ビジョン)案、取組方針(コンセプト)案、先行的取組ワーキンググループ会議について説明を行った上で、議事ごとに審議を行った。
会議録の 作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の 確認方法	☒ 会議の議長の確認を得ている ☐ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要事項 (会議の公開・非公開、傍聴人数等)	公開会議、傍聴人数 0 名

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 開会

- ・ 黙祷 ― 故・久保恒彦様（和泉市久保惣記念美術館名誉館長・和泉市名誉市民）

2. 前回の議論のふりかえり

【事務局】資料1 論点別意見整理について説明。

- ・ 項目①の使命については、地域への貢献、相互の交流、コミュニケーション、福祉分野との連携についての意見を頂いている。
- ・ 項目③コンセプト、1. 美術品の収集・保管・広報発信について1.2万点の収蔵品、価値のPRについての意見を頂いている。4. 広報発信については万博を契機としたプロモーションについての意見を頂いている。5. 連携協力については、ボランティアの在り方、和泉市商工会議所、地域企業との連携、ふれあい体験事業の在り方(小学校との連携)、大学との連携、福祉分野との連携についての大変多くの意見を頂戴している。6. 地域活性化、交流促進、観光については市民創作教室の在り方、体験というようなキーワードでの意見、インバウンド戦略としての体験に対してのキーワードでの意見、飲食の体験について現状レストラン等がないので入れてはどうかという意見を頂いている。7. 経営、環境、施設整備については人の手当て、人材確保等の体制強化についての意見を頂戴している。その他として施策の優先順位をつけたらどうかという意見を頂戴している。

【井上委員長】

- ・ 資料1の2ページ目、5. 連携協力の福祉分野との連携の部分での発言部分、北名古屋歴史民俗博物館ではなく資料館であるので訂正して欲しい。北名古屋歴史民俗資料館は、昭和日常博物館というニックネームがあり、昭和の懐かしいもの自身も小さいころに見たことがある風景が展示室に広がっており、回想法が使われているのがよく分かるので紹介させて頂いた。

3. 議題

（1）運営ビジョン作成に向けた基礎調査等の経過

【事務局】事務局より資料2を説明。

○他館へのアンケート調査について

- ・ 現在運営ビジョン作成に向けて他館への基礎調査を考えており、これからアンケート調査を行う。目的は「類似美術館の運営・取組状況を把握することで、今回の運営ビジョンにおける取組方針や今後の取組内容に活かすことを目的に行う」と考えている。
- ・ 対象の抽出は公立243、私立149件のうちから、収蔵点数と立地条件（駅からの距離等）から対象の絞り込みを行った。当館は1万2,000点の収蔵品、和泉中央駅から2kmの立地条件を踏まえ1,000点以上の収蔵点数を有し、かつ最寄り駅から3km未満の美術館の条件で絞り込み、248件+αを対象としたいと考えている。
- ・ 調査項目、アンケートは、記載のとおりである。この後、アンケート調査実施、とりまとめ、当委員会に報告を予定している。

○学芸員ヒアリング調査について

- ・ 学芸員ヒアリング調査の目的は、「美術館運営に最前線に関わり、核でもある、学芸員からのヒ

アリングを実施することで、限りある体制の中で、取組の優先順位について整理を行う」という点から実施する。

- ・ 現在ヒアリング途中であるが、現状4人に実施している段階である。
- ・ デザイン経営の考え方を基に、「久保惣記念美術館の強み・アイデンティティ」について意見整理を行った。「文化醸成」「人格形成」「価値創造」のカテゴリーで意見をまとめている。
- ・ 「文化醸成」では、「学芸員のもつ力」「国内の美術館・博物館とのネットワーク」が強みである一方で、課題として、「学芸員の人員の増加、専門分野の充実」、「後継の学芸員の確保」、「本来業務である調査・研究のしづらさ、他業務で十分な時間が取れない」の意見があった。
- ・ 「人格形成」では、「収蔵品の強さ」「作品の多彩さ」「研究・調査の確かさ」「美術館の建物・庭園・茶室」といった空間のすばらしさについての意見があった。
- ・ 「価値創造」では、「常設展(収蔵品展)」「特別展(自主企画)」、「館内で過ごす時間」について意見が出ている。一方で課題として「ミュージアムグッズの開発、商品開発の必要性」、「カフェ、レストランの運営」、「多目的に利用できるスペースの確保」の意見があった。
- ・ 「この10年で特に取組むべき必要があること」について、前回お示しした7つのカテゴリーを軸に整理をした。
- ・ 根幹・本質の部分として「美術品の収集・保存」があり、「調査・研究」、「展覧会・教育普及」がサイクルとして回っていく中で、学芸員からは、「調査・研究が根本」、「時間の確保が必要」、「研究者が集まる美術館」、「調査・研究と展覧会・教育普及は不可分」の意見があった。
- ・ 「連携協力」、「地域活性化、交流促進、観光」については、「ふらっと来れる美術館」、「多様な活用が展開される美術館」というような意見があった。
- ・ 「広報発信」について、「調査・研究、展覧会・教育普及の取組を伝え、集客につなげる」、「待っているだけでなく外に出て発信し、美術館に来てもらうことが必要」の意見があった。
- ・ 「経営、環境、施設整備」が根幹・本質の下支えとなる部分であるが、「計画的な人材確保が必要」、「人材が展覧会の多様性につながる」という意見があった。

【大西委員】

- ・ アンケート調査対象の抽出方法について、収蔵品点数が久保惣記念美術館により近い対象であるとか、立地については(久保惣記念美術館が)もっとロケーションが良い場所にあったら年間数十万人単位の集客が見込めるのではないかと考えている。和泉中央駅から直線距離で1キロから2キロ未満に久保惣記念美術館が入るようだが、駅から500mの対象と同列で比べるのはどうか。直線距離というのは実際の所要時間等もあると思うが、幅を持たせたのは幅の中でどういう取組をしているのかを知りたいからなのか。或いは久保惣記念美術館により条件が近いところに絞って比べる方が良いのか。
- ・ 和泉中央は終点にある駅であり、その条件と別の条件にある駅では違ってくるのではないか。

【事務局】

- ・ 類似施設の扱い方や考え方については悩んだが、収蔵点数で類似対象を抽出とすると全国でも対象が少なくなる。また久保惣記念美術館の規模・学芸員の体制と収蔵点数が比例していないことも含めて考えると、収蔵点数を軸に絞るのは厳しいと判断した。
- ・ 分野分類での絞り込みについても対象が少ないため、一定数ということで、1,000点以上とし

た。

- ・ 立地条件について久保惣記念美術館は駅からはバスを使って 10 分で来館でき、駅については快速なのか普通が止まるのか等の条件はあるが、まずは公共交通機関があってそこから徒歩や車でないと行けないという立地でなければよいと判断をし、3 km 未満を対象にした。アンケートは偏った回答にならないよう、母数を一定数保ち、収蔵点数と立地条件に絞ったというのが事務局の考え方である。

【松本委員】

- ・ 久保惣記念美術館の立地条件は決してプラスには働いていないと見ている。つい先日中之島香雪美術館で印象派の展覧会があった際に 4 万人が来館された。
- ・ 駅からの距離というよりも、全体的な立地環境が大きく影響する。観光地の中にある一つの美術館なのか、或いは久保惣記念美術館のように文化施設として単独、周囲に類似施設がない美術館なのかで大きく影響が出る。京都だと類似施設が複数あるので、その中で連携が取れる。
- ・ 他館から立地面で損または得をしている点、苦戦している点等について、アンケートでざっくりばらんに聞くことで参考になる点があるのではないかな。

【事務局】

- ・ 先程の説明で 1 枚目の最寄駅からの黄色い網掛け部分を対象にしていると説明したが、松本委員の意見を受けて、交通の利便が悪いからこそどういった取組があるのかという視点もある。駅から 3 km 以上や 5 km 以上の立地条件の対象から聞くことで取組の参考になる、というご意見を踏まえ、アンケートに反映したい。

【井上委員長】

- ・ 久保惣記念美術館の展覧会はほぼ見てきたが、高齢の母が和泉中央駅から歩けなくなった為に来場機会に繋がらない自身の体験がある。立地についてアンケートに取り入れて頂きたい。
- ・ 学芸員の人材確保について、15 年経つとほぼ全ての学芸員が居なくなる。15 年先を見据えて久保惣記念美術館の財産をどう残していけるのか、その体制を考えることが必要ではないかな。
- ・ 久保惣記念美術館が生き残っていくために、地域でどう存在感を増しながら貢献し、どのように変わっていくのか、何を付け加えていくのかを我われは提言としてまとめなければならない。
- ・ 根津美術館や藤田美術館は東京オリンピック前に改修を実施し、インバウンドを取込む計画を実践している。久保惣記念美術館もそのスピード感でやっていたら違っていたのかもしれない。今後は大阪万博もあるし、少子高齢化の中で美術館を継続して和泉市に存在する意味も含めて残せるように考えなければいけない。

【平田委員】

- ・ アンケート調査票、問 8-2 の設問について、年間パスポートの発行とあるが、それぞれの施設で様々な料金体系が実施されていると思うので、高齢者・大学生など属性に応じた料金体系等をアンケートで聞かれたほうが参考になるのではないかな。

【高橋副委員長】

- ・ 和泉市民や子どもが本当に久保惣記念美術館を知っているのか。年齢が上の方は行ったことがあるが、子どもたちは知らない子が多数である。子どもたちが知らないのにどうやって和泉市民が外に広げていけるのか。教育の一環として現状の6年生だけでなく、小学校低学年の頃からしずくを落とすように美術館のことを知ってもらうことはできないか。和泉市が発信したいことを和泉市民が知らないのでは広がらない。
- ・ 教育に入れていけば学芸員になりたい方も出てくるかもしれない。もっと夢を持たせるような取組をしたい。教育委員会と連携をして幼稚園年長からでもしずくを落とす工夫が欲しい。

【事務局】

- ・ 美術館として、学校現場も大変なので美術館としてできることがあるか考えたい。どういったところでしずくを落とすのか、久保惣記念美術館のポテンシャルは高く、それを知ってもらうのは外部の人だけではないと認識している。まず市民・子ども・子どもから保護者や家族へ、その広がり方も大切である。教育との連携強化の意見と受け止めた。
- ・ 紹介となるが文化芸術科学ふれあい体験事業で6年生が来館する際に子どもが親に手紙（美術館に行った感想）を書き多世代に広げる取組は実施している。より強化して和泉市民全員が分かるように広げていってはどういう意見だと受け止めた。

【井上委員長】

- ・ 小学生以上の年齢も対象にしたほうが良い。地元の大学生でも久保惣記念美術館やいずみの国歴史館すらも知らない学生もいる。文化経済学では、文化を享受するのは小さいころから享受できる能力を養わないと身につかないと言われている。早期からしずくを落としていけるような施策を教育委員会にもお願いしたい。

（２）使命（ミッション）案、基本方針（ビジョン）案、取組方針（コンセプト）案

【事務局】事務局より資料3を説明。

○ビジョン策定の背景（現状と課題の整理）

- ・ 先の委員会を出している現状と課題をSWOT分析でまとめた。
 - ・ 内部環境のプラス要因として、「収蔵品の数、質、多彩さ」、「常設展、特別展に定評」、「学芸員の人的ネットワーク」、「空間のもつ魅力」、「企業の地域貢献の歴史」、「教育普及事業の取組」。
 - ・ 内部環境のマイナス要因として、「来館者数の属性の偏り、平日の来館者」、「新たな収益確保」、「施設・設備のリニューアル」、「学芸員の人材育成・確保」、「多様なセクターとの連携」、「駅からの距離、移動手段」。
 - ・ 外部環境のプラス要因として、「国の動き」、「デジタル技術とDXの推進」、「大阪の動き」、「インバウンド訪日外国人の増加」、「和泉・久保惣ミュージアムタウン事業」、「周辺環境の変化」。
- 外部環境のマイナス要因は、「人口減少、少子高齢化」、「人気美術館との差異化」、「大阪、京都への観光客の集中」、「来館者の多様化」、「美術館運営の難しさ」がある。

○関連計画

- ・ 上半分が外部関連計画、例えば文化芸術基本法の改正、I COM京都大会、大阪都市魅力創造戦略といった外部計画がこういった動きをしているかが関わっている。

- ・ 下半分が内部関連計画、例えば和泉市総合計画、和泉創発プラン、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、和泉・久保惣ミュージアムタウン構想、和泉市生涯学習・スポーツ推進計画、和泉市景観計画・条例、和泉市観光アクションプラン、それぞれ計画やプランがあるが策定年度が概ね2025年度に主要な計画が更新していくタイミングである。

○久保惣記念美術館運営ビジョンの構成イメージ

- ・ 前回資料20に記載したが、更にまとめてブラッシュアップした構成イメージである。
- ・ (1)～(7)に取り組み方針として列記しているがこの部分を体系的に整理すると「根幹・本質の磨き上げ」については(1)美術品の収集・保存とコレクションの充実から(3)展覧会・教育普及の充実にかかる部分と考えている。
- ・ 次に、「根幹・本質を伝える」については、(4)伝えたい人に伝わる広報・発信と、(3)展覧会・教育普及の充実にもかかる部分となる。
- ・ 次に、「地域社会との多様な関わり」については、(5)連携協力、(6)地域貢献の部分になる。
- ・ 次に、「根幹・本質を支える基盤整備」として、(7)経営、環境、施設整備として整理した。
- ・ この10年で先行的に取り組むべきアクションとして、①戦略的な広報宣伝活動とインバウンド戦略、②関係機関との連携協力により、美術館を最大限に使いこなす、③リニューアル計画の推進により、収蔵品を最大限に活かした展覧会の開催と次世代につなぐ美術館、④グローバルな文化歴史財産として、他館との連携強化と世界の美術館との交流促進、⑤組織マネジメントの強化と効率的で効果的な運営へ、としてまとめた。
- ・ 先の委員会において、「学芸の人材確保が全国的も課題」、「業務量が増えることによる人の手当が重要」、「施策の優先順位をどう付けるか」、「実効性をどう担保するか」というご意見を頂戴した。現場の我われが最も業務量に苦しむことになるので、絵にかいた餅にならないよう、優先順位として①から順番に列記したもの。ただし、①が終わらないと、②番の施策を行わないというわけではなく、優先順を付けながらも、並行して取り組んでいくものと思っている。
- ・ 補足すると①戦略的な広報宣伝活動についてはすでに当館の持つ収蔵品価値について万博の開催を控えていることも契機として積極的にプロモーション活動を行うことが必要となる。あわせて広報の在り方を現在見直しており、より効果的な広報、例えば紙ベースよりデジタル広報への転換についても他館取組の調査研究を行ったうえで検討し、実施していきたい。
- ・ ②関係機関との連携協力だが前回の委員会で多くの意見を頂いた通り、連携すべき先は多数ある。少しずつだがまずは委員の皆様方とのセクターとの連携協力を深めていきたい。

○基本理念(ミッション案)

- ・ ①多様な価値を伝え・育む美術館について、この提案に至る事務局の思い・考え方について説明すると、まず、当館のアイデンティティとして、その名前の由来でもある、地元企業「久保惣」からの寄贈が礎であることを冒頭述べている。また、当館の魅力としては、収蔵品のみならず、本館・新館・茶室・音楽ホール・市民ギャラリーなどの多様な建物空間に加え庭園もある。この、多彩な時空間の魅力について、過去の歴史・文化・芸術から・今を生きる私たちが、その魅力を享受することにより・未来に向けて豊かな人生の糧になるということについて、文脈としてまとめたものである。
- ・ ②創造の拠点となる美術館について、提案に至る事務局の思い・考え方について説明すると前回の委員会において、キーワードとして、「地域との相互交流」、「住民参加」、「様々なコミュニケーション」、「新たなものを創造する拠点」というご意見を頂戴した。また、改正博物館

法においても、他の美術館、地域の多様な主体との連携についても謳われている。このことは、美術館が「受け身」の存在ではなく、積極的にアウトリーチしていくこと、また多様な主体と連携することで、WIN-WIN の関係、さらには、当館・連携先・関係者が「三方良し」となること、それによって新たな価値を生み出し、社会の創造性を高めることにより、ひいては市民の誇りとなる拠点になることを目指すということについて、まとめたものである。

③まち・人を繋げる美術館について、提案に至る事務局の思い・考え方について説明すると、まず、当館を拠点とし、ミュージアムタウンとしての価値が和泉市らしさであり、アートをキッカケに、「まちと人」、「人と人」がつながる素地がある。そのうえで、①多様な価値を伝え、育む美術館、②創造の拠点となる美術館、といったミッションを踏まえれば、まさに人の人生・生活に対して、当館が持つあらゆる可能性を最大限に活かすことで、貢献できる存在になれると考えている。来館される際の動機としては、展示品が好きな方、コンサートが好きな方、茶室が好きな方、などがいるかと思うが、さらには、少し心身の充足感を求めに来る方もいると感じている。それらは、まさに「暮らしの中にある美術館」であり、その存在意義を高めていくことで、地域の価値及び一人一人の活力のみならず地域の活力の向上に繋がるという思いから、まとめさせて頂いた。

○基本方針（ビジョン）案、取組方針（コンセプト）案について

- ・ 美術館とまちが融合したミュージアムタウンと、拠点なる美術館の魅力を伝え・育むため、「美術館のリソースを最大限に使いこなす」ことにより、持続的な成長を果たします。という文章でまとめている。
- ・ 提案に至る事務局の思い・考え方について、先ほどご提案した使命・ミッションに基づけば、「美術館のリソースを最大限に使いこなす」ことが自ずと必要になる。リソースを最大限に使いこなそうとすれば、現状維持ではなく、持続的な成長を果たすことが必要になる。持続的な成長については、来館者にとって魅力的な美術館として満足度が向上するような施設リニューアルのほか、組織マネジメント強化を果たすという思いからまとめた文章である。

○取組方針（コンセプト）案について

- ・ コンセプトのところでも触れ取組方針として7つ掲げているが、デザイン経営の好循環モデルの考え方に、学芸職員からのヒアリングを踏まえた整理を行ったものが図表のとおりとなる。
- ・ デザイン経営を説明するとデザインの力をフラグの構築やイノベーション創出に活用する敬称で人（ユーザー）を中心に考えることで根本的な課題を発見し、これまでの発想にとらわれないそれでいて実現可能な解決策を柔軟に反復・改善を繰り返しながら生み出すこととなり、これをもとにまとめた表である。
- ・ 人格形成を中心に据え、文化醸成・価値創造と循環することを表している。また、人格形成の基礎となるものとして、7経営、環境、施設整備が必要になるものをまとめた資料である。

【松本委員】

- ・ 改めての確認となるが、今回のビジョン案等を取りまとめて、どのような形でどこに向けていつ頃発信をするのか。基本的な前提について聞きたい。
- ・ 市民に向けての発信はしないのか。その場合どういう形でどう行うのか。
- ・ どこに向けて、どのように発信・発表するかによって、文章の長さも表現も取りまとめの仕方も変わるので、前段階としてミッション・ビジョン・コンセプトをきちんと揉んで形にすると

いう段階で良いか。

【事務局】

- ・ 今年度中にまとめたうえで、10 年先に向かって取組方針は実に進めていくのが方向性。
- ・ ビジョンとしてまとめることで公開の資料となる。どこに向けては取組方針のところでどこに対してどう取組んでいくかになる。使命とビジョンがあった上で、使命の部分については決めた上で対外的に公開し、どこに向けては多様なセクター、内部組織もしっかり、上位計画との整合性を着実に進めるためにどの対象に対しても発信するうえで核になるものと思っている。具体的に分かりやすいのは取組方針コンセプトの部分で実際実現をする方がたに対してアプローチするための手立てと思っている。
- ・ パブリックコメントを実施し、市民意見を踏まえビジョンを策定する。なお、パブリックコメント前後には議会に対しても報告を実施する。
- ・ 市民に向けてはホームページでお知らせ、書面は図書館等に配架する予定。概要版を広報和泉の美術館のページで紹介することも可能と考えている。
- ・ 現段階で委員からは内容についてのエッセンスをいただき、事務局側で文章を検討していく。

【大西委員】

- ・ 現在の久保惣記念美術館と市民の有償ボランティア活動との連携はどうなっているのか。どのような方がどう関わっているのかを聞きたい。桃山学院大学の学生は何年か前から池上曾根遺跡にボランティアとして来ているがそういった方は関わっているのか。市立美術館なので市民との連携・地域の店舗との連携はどうなっているのかが大事だと思うので聞きたい。
- ・ 市民が久保惣記念美術館とどう関わっていけるのか、和泉市には昔ながらの和菓子・豆腐屋・ガラス玉工芸等、良いお店がたくさんあるので連携出来ないかと考えている。

【事務局】

- ・ 有償ボランティアは現在も継続しており、ホームページなどで募集をかけている。ボランティア活動は、受付対応、展示室の監視、グッズ売り場の対応、コンサート活動など美術館運営のサポートである。
- ・ メンバーは近隣市民、和泉市民が 9 割、一部近隣市、年齢層は 50～60 代を主とする構成。
- ・ 展覧会のたびレクチャーをして作品解説の勉強をして頂いており、来館者への対応も行っている。子ども向けのイベントの時は子どもたちへの対応も行っている。

【井上委員長】

- ・ 池上曾根遺跡のボランティアは、桃山学院大学の国際教養学部の学生が関わっている。
- ・ 駅前のインフォメーションには、和泉市の土産物が並んでいるがもう少し何か工夫がないと人が集まらないのではないかと。大学の学生が和泉スイーツをつくっているのだから、久保惣記念美術館と連携できればと考えている。

【高橋副委員長】

- ・ ②の関係機関との連携のところで、第 1 回目の会議終了後に商工会議所で相談し、会議所とし

ては「和泉会議所だより」という広報を毎月発行するので載せることはできる。来年度からペーパーレスでデジタル化されるが対象企業が2500程ありそこに向けて配信できる。

- ・ テクノロジーの大企業の方がたが接待する場がなく、食事する場所も遠いと聞く。西棟応接室を借りて食事の提供や、茶室を利用して学芸員に紹介をしてもらう等、和泉市を知っていただく接待に使えないか。茶室も是非使いたい。

【事務局】

- ・ ご提案ありがたく思う。西棟の活用については、活用頂く対象とそして制約も含めてプログラムを考えた上で、企業との連携を前向きに互いにウィンウィンになれるように取り組みを進めたい。

【井上委員長】

- ・ アメリカの美術館では展示室でパーティーする事例がある。久保惣記念美術館が持っている資源を有効活用する意味でそれを使うというのも一手である。一方で作品に対して保存科学の面で十分にメンテナンスできるか、バランスを取らなくてはいけない部分でもある。人と施設に関わる部分であるので人材・金銭の手当を和泉市にも要望したいところである。

【平田委員】

- ・ ミッションについてだが、あくまでも議論する上での資料として捉えて良いのか。
- ・ 子どもたち、地域住民のふるさととしてのこの地域という場所、久保惣記念美術館がここにあることにより愛着をもってもらうことを掲げる必要があるのではないか。
- ・ 久保惣が明治後半ごろになぜこの地で創業されたのか、背景の深堀をしながら、なぜ久保惣が美術収集されたのか等が書かれていれば、より子どもたちや市民への説明になる。時代背景も含めてそういうことが語られると愛着・誇りに繋がる。対外的に発信するためにもそういった背景がミッションで深堀されていると良い。
- ・ 「福祉」との連携は幅が広い。実際にハンディキャップがある方がたが訪れて美術の鑑賞することもあるだろうし、高齢化社会の中で孤立している高齢者が増えてくる。そういった方がたが対外的な社会生活と結ぶという意味でのアートがあって、文化的処方、孤立から心の豊かさを感じ取って頂き、地域社会とつながる一面もある。そういった観点も含めてのミッションの価値というのを書かれてはどうか。
- ・ ③のくらしの中にある美術館のところで、地域社会と和泉市の中というイメージが強いが、それにプラスして来館者全てが心豊かに帰るという視点も加えて頂きたい。
- ・ SDGsのキーワードにも触れている方が持続可能性のある美術館として良いのではないだろうか。

【事務局】

- ・ 誇り、歴史・背景・子ども・ふるさと・愛着とキーワードを頂戴した。この使命の前書きの部分に盛り込んでどうかという意見も大変貴重で検討したい。使命案として前回の資料で論点を出すときに、美術館が社会に向けて発信する新たな価値と役割とはというところで大きくこういう文章を使ったが、ここはそれを含んだ①②③としている。

- ・ 先程いただいた意見で福祉の観点、孤立やいろんな課題を抱える方がたがおられ、③の２行目にある「くらしの中にある美術館」というのがまさにその観点を含んでいる。最近よく言われるウェルビーイング (Well-being)、心の充足感、繋がりなど、美術館にはいろんな時空間があるので、例えば美術館にきてゆっくりと景色を眺めてもらうのも一つ。心の充足感もより豊かになる。くらしの中というのは、美術館が受け身ではなくていろんな方を受け入れる空間、その価値、そこも踏まえての言葉として考えている。平田委員の想いも踏まえた文章である。

【久保委員】

- ・ 和泉市が成り立つ背景、繊維業界が泉州企業を支えた歴史があり久保惣記念美術館が残っている、そういう話から入らないと市民に落ちてこないのではないか。
- ・ 美術館だけの話をすると、茶室には戦時中に松下幸之助含めた娘さんが疎開していた。その間に工場を分割して売却し、亡くなられる前に娘さんが来られた歴史的背景がある。
- ・ 茶室は不審庵の写しで日本唯一ここだけで、表千家の茶会が行われ、普通なら誰も入れない不審庵を一般的に見ることができるなど、存在意義が知られていない。日本の産業の移り変わりを物語っている。公的な美術館は全然違う意味があると思うが、まちとしての歴史的背景があり、繊維産業がそれを支え、商工会議所や市民が絡みながら、久保惣記念美術館がある。
- ・ 和泉式部の資料が今美術館にどんどん入ってきているが、和泉には和泉式部がいたことが和泉市民は分かっていないのではないか。
- ・ 鎌倉時代の作家のストーリーがないと、美術品も入ってこない。美術品と言うのはそういう風に動く。最終的にはここに戻ってくるケースもある。そういった歴史的なものをもう少し出して、立地の背景、閑空ができて、内田町周辺が一大工業地帯・テクノステージとなり、阪神・淡路大震災を経て物流拠点が海側から山側に移動してきたので、テクノステージ周辺の土地が無くなった。そういう現象、移り変わりが分かると和泉市のイメージ、落ち着きが腑に落ちる。市民への誇りになるし、流れを持てる。
- ・ 例えば重要文化財・源氏物語手鑑があるが久保惣記念美術館に来て初めてここにあったのか、ということになる。流れを含めてどこかに残し、流れを紐解いておかないといけない。国公立美術館との違いはそこだと思う。
- ・ 背景を含めて広がることで必要性の腑に落ち感、美術館があることの必然性が伝わる。
- ・ 台湾出身の実業家・林宗毅氏が久保惣記念美術館に美術品を寄贈したのは、台湾という国がなくなるという恐れから寄贈した、安全性で選ばれたと聞いている。
- ・ 全ての歴史が表に出ていないし伝わっていないことがもったいない。愛着心を高めるための方法に使えるのではないか。

【井上委員長】

- ・ 和泉市久保惣記念美術館という名前が物語っている通り、久保惣という私の部分と和泉市という自治体の名前がこの美術館の性格を表している。自治体だけでなく企業名がついた他にはない美術館の性格をどうアピールするかということだと思う。
- ・ 和泉市のアイデンティティや郷土愛をどう^{かんよう}涵養していくのか。久保家をはじめとする泉州の繊維産業がこの地域を支えてきたことを知らしめる場所というのも必要であり、公共性とこの地

域の話をうまく織り込んでいきたい。

- ・ 神戸にUCC珈琲博物館があるが、なぜUCCという企業の宣伝をこの博物館でやらないのかと入館者から言われて館内での展示でUCCという企業の歴史も出すようになった。それまでは企業のアピールは一切しないポリシーで行っていた。ビジョンの中でどういうポリシーを館がもつかを考えないといけない。

【松本委員】

- ・ どのような対象にむけてどうやって発信していくかというポイントは、和泉市であり久保惣である根本のところであり、市立であるので、地元が第一でないといけない。
- ・ 久保惣記念美術館の「久保惣って何だろう」と思う素朴な疑問を解決すること。対地元、対地域、それに対するケアがミッションの前には一義的でないといけない。
- ・ 収蔵している時代・地域・種別も多種多様な作品、国立も含めてそんなでない。それだけの価値のあるもの、大げさに言えば人類普遍の財産の一部を持っている。それが和泉の地にあるという、普遍的な価値についてもう一つミッションの中で高らかに謳い上げる。
- ・ 地域第一義でなおかつ普遍的な部分を背景に持たせる。二重三重の膨らみがあると、ミッションとしてふさわしい印象と考える。

【平田委員】

- ・ ビジョン・コンセプトのところ、久保惣記念美術館だけでなく美術館全体のビジョンのようなイメージとなっている。もう少し尖った久保惣が持っている価値を全面に盛り込んだら良いのではないか。西洋美術・東洋美術を多く所蔵されているところや、他に類がない価値は学芸員さんに語って頂かないといけない部分。久保惣記念美術館とはどういう美術館なのか。他の美術館とどう違い、こういう美術館をめざしていくところを盛り込んで欲しい。
- ・ 学芸員の意見のところ将来の姿の部分でふらっと近所の方が、高齢者がのんびりと、中高生がと書かれているが、国内外の様ざまな方も来ていただくことも盛り込んで頂ければ。
- ・ アクションの中身が具体的な行動のイメージになるのか。パブリックコメントの案を作っていく段階ではミッション・基本方針・取組コンセプト等をやりながらアクションも入ってくるのか、それともその後になるのか。

【大西委員】

- ・ 今取り上げていることは抽象的であるように感じる。具体的にこれから何をしていくかを審議する場所ではないのか。またはコンセプトを決めていくのか。
- ・ インバウンドを例に出したが体験することの重みが高い。アクションプランや大阪府の計画にもインバウンドに向けた取組が入っているので、市民がそれに参加する形、和泉市が既存のお店との文化との関わりも含めて活性化していけたら良い。
- ・ 今後、有償ボランティアが、インバウンドに関わる形にしていってはどうかと思う。
- ・ サテライトについて、どれだけ関空に行く電車に乗っているのか、スーツケースを持った方がどれだけおられるのか見ている。調べたところ、日本のいくつかの美術館がロケーションの関係でサテライト美術館を開設している。長期的に継続していくということではなく、アピールを終えたら引き上げてもいい。インバウンドの方がふらっと立ち寄れる場所、関空との間にあ

るという特性を活かし、富裕層のお客様もいるので、芸術だけでなく食の文化も伝えたい。

【事務局】

- ・ 委員会で決めて頂く内容としては、ミッション、ビジョン、コンセプトの大枠である。具体的な実行策は、既に考えている部分もあるが、事務局で検討して実行していく予定である。
- ・ 来年度、インバウンドの観点から、万博施設で働く外国人をターゲットとしたモニターツアー、6時間程度の文化芸術体験(来館・昼食・企画パッケージ)を80人程度の規模で来年度実施する。目的は海外の方に帰国後にPRしていただくシャワー効果を期待した戦略である。
- ・ 現状のボランティアは運営のサポートだが、それ以外の学生ボランティア等、ボランティアの多様化に向けて検討したい。
- ・ サテライトの観点については知ってもらうことが大きい。今回、久保惣記念美術館の収蔵品展として、中之島香雪美術館において展覧会を開催し、4万人以上が来館された。サテライト施設を造るといったハード整備ではなく、何か連携することによって、受け身ではなく価値を伝え、生み出し、より知ってもらう取組を進めていきたい。
- ・ アクションの中身は、予算の関係もあるので運営ビジョンの中でどこまで書き込むことができるのかが懸念としてあり、事務局内で検討したい。

(3) 先行的取組ワーキンググループ会議について

【事務局】事務局より資料4を説明。

- ・ 取組方針を実行するにあたり、関係部署との連携を図るためワーキングを開催する。
- ・ 大きくワーキンググループでは3つ開催していく。リニューアル・基本構想策定部会としては建築住宅部局。
- ・ 美術館のリソースを最大限に使いこなす部会、教育との連携では学校教育と政策企画室。政策企画室では桃山学院大学が窓口になっている。市内企業との連携でいうと、高橋副委員長からも商工会議所との連携についてのご提案をいただいているが、商工観光部局とのワーキング。また医療・福祉との連携については健康づくり推進他としており、福祉関連部局と共にどんなことができるのかについて議論したい。
- ・ 広報・インバウンド部会としては商工観光部局と広報・協働推進部局で交流人口や来訪促進がミッションとして入っている。そういうところと連携しながら議論を深めていきたい。
- ・ マネージメント強化と運営部会で、政策企画室、ここは組織統括をする部局なので、そちらに対しても投げかけをして少しでも実効性のあるように各関係機関と進めていきたい。
- ・ ワーキンググループ1回目を10月11月と大きくは2回と考えているがリニューアル基本構想策定部会では3回。結果についてはとりまとめた上で報告させていただく。

4. その他

- ・ 第3回：令和6年10月22日午後3時～午後5時(終了予定)、場所は和泉市役所5階5A会議室で行う。
- ・ 第4回：日程調整について。改めて調整の上連絡をする。

＜ 終 了 ＞